

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	湘南藤沢地方卸売市場食品流通センター	階数	地上2F
建設地	藤沢市稲荷450番地他69筆	構造	S造
用途地域	準工業地域、防火指定無し	平均居住人員	30人
気候区分		年間使用時間	2,400時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2013年12月 予定	評価の実施日	2013年3月5日
敷地面積	27,775 m ²	作成者	JFEエンジニアリング(株)
建築面積	3,937 m ²	確認日	2013年3月5日
延床面積	7,535 m ²	確認者	JFEエンジニアリング(株)



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.2 ★★★★★

S: A: B+: B-: C:

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

参照値	100%
建築物の取組み	87%
上記+ 以外の	87%
上記+	87%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです (kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

音環境	2.6
温熱環境	2.6
空気環境	2.8
総合	2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

機能性	2.8
耐用性	3.0
対応性	4.1
総合	3.2

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.5

生物環境	2.0
まちなみ	3.0
地域性	2.5
総合	2.5

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

建物の	N.A.
自然エネ	3.0
設備システ	5.0
効率的	3.0
総合	3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

水資源	3.0
非再生材料の	3.2
汚染物質	3.0
総合	3.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

地球温暖化	3.5
地域環境	3.5
周辺環境	2.7
総合	3.2

3 設計上の配慮事項

総合	その他
<ul style="list-style-type: none"> 建屋形状のコンパ外化により既存緑地・景観への影響を軽微に抑えるよう計画を行った。 環境に配慮した設備計画・機器の選定を行った。 	
<h4>Q1 室内環境</h4> <ul style="list-style-type: none"> 執務空間等はゾーン毎に冷暖房の選択可能な空調システムを計画した。/・執務空間等は外気負荷を抑えるため換気に全熱交換機を採用した。/・倉庫・執務スペースを明確に区分けし空調効率等に配慮した計画とした。 	<h4>Q2 サービス性能</h4> <ul style="list-style-type: none"> 設備スペース用として、十分な天井ふところ寸法を確保し更新・修理等のメンテナンスの作業性を考慮した。/・設備関係について、日常の保守、点検作業やメーカー検針などを効率的に行えるよう配慮し、建物内に配管配線スペースや盤を計画した。
<h4>LR1 エネルギー</h4> <ul style="list-style-type: none"> 高効率の照明器具を選定した。 便所、階段室の照明器具は人感センサー対応とした。 	<h4>LR2 資源・マテリアル</h4> <ul style="list-style-type: none"> F 建材を採用した。
	<h4>Q3 室外環境 (敷地内)</h4> <ul style="list-style-type: none"> 既存植栽の保全、再生に努める計画とした。/・空調室外機を庇上に設置、換気の排気口を高い位置に設置するなど、人の通行する場所や給気口等に排気・排熱が及ばないように計画した。
	<h4>LR3 敷地外環境</h4> <ul style="list-style-type: none"> 建物規模を出来るだけコンパ外にし、既存の緑地保全に努める計画とした。/・高効率の照明器具を用いることにより温暖化に配慮した。(運用時のCO₂低減)/・駐車スペースを敷地内に計画し、周辺地域に他する交通負荷の抑制を図った。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される